

令和6年度 海部支部学校図書館教育研究集会について

1 概要

研究テーマを「児童・生徒の学びを支える学校図書館」とし、児童生徒が自ら本を手に取りたいくなるような知的好奇心を抱かせる環境づくりや、協働的な学びにおける本の活用を通して、自らさまざまなジャンルの本を手にする児童生徒の育成について考える機会とした。

『興味をもって本と関わり、進んで本に親しむ児童の育成』をテーマに研究を進めた大治町立大治西小学校から実践発表があり、意見交流を行った。また、各学校の取組や困りごとについて情報交換を行ったり、しおりをつくるワークショップを行ったりした。

2 実践発表『興味をもって本と関わり、進んで本に親しむ児童の育成』（大治町立大治西小学校）

興味をもって学校図書館に関わりをもち、さまざまなジャンルの本に親しむことができる児童の育成を目指した取組が発表された。「季節の本」「教科書に出てくる本」などのコーナーを設置したり、大きな見出しや配置図を掲示したりすることで、利用しやすい図書館づくりがなされていた。また、図書委員会を中心に対象学年別ビンゴを企画したり、児童会が呼びかけて本の破損をチェックし、本の修復作業をしたりする活動など、本との関わりを楽しむ児童の様子が報告された。タブレット端末を活用した図書室利用動画や読書記録の取組も紹介され、「今後、自分の学校でも取り入れたい活動を多く学ぶことができた」という声が聞かれた。



【実践発表の様子】

3 情報交換会

各学校で、学校図書館について困っていることについて、情報交換を行った。児童生徒を図書館に誘う手立てや ICT を活用した取組が紹介され、各学校での学校図書館運営のヒントとなった。

4 ワークショップ『簡単!楽しい!しおり作り』

画仙紙に筆ペンやパステルで字や絵、模様をかいて、しおり作りを行った。画仙紙を使ったり、パステルで着色し指でぼやかしたりすることで、簡単に味わい深いしおりを完成させることができた。児童生徒にも取り組みやすいため、図書委員会の活動に生かせるワークショップとなった。

5 おわりに

最後に、指導助言をいただいた。学校図書の選定や廃棄に関わる基準、小中高生の読書量の調査結果などを踏まえて、これからの学校図書館教育に期待される役割について教えていただいた。今後も、全ての児童生徒が自由に好きな本を選び、本の世界に浸ることができる学校図書館を目指したい。